



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.23 2007.8



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

## 目次

	ページ
● イベント報告	
シンポジウム「企業と博士」	2
第5回 Inter-COE シンポジウム	2
研究・技術計画学会 国際問題分科会 7月例会	3
● コラム	
戦略的提携における組織設計：SIMOT による新たな視座	3
● イベント予定	
研究・技術計画学会 国際問題分科会 9月例会	4
平成19年度前期 SIMOT RA・若手研究者 研究報告会	4
● 連絡先	4

## トピック

### 第5回 Inter-COE シンポジウム (2007年8月3日 東工大 70周年記念講堂 / 西9号館 311 講義室)

東京工業大学では、毎年、主に高校生を対象としたシンポジウムを開催しています。第5回となる本年度のシンポジウムは、文部科学省が世界最高水準の教育や研究を担う拠点として、平成15年度と16年度に「21世紀COE」として指定した東工大内の8拠点および今年度に「グローバルCOE」として採択された5拠点によって合同で開催されました。

シンポジウムは、大学全体で行われる午前の部と、各拠点主催の見学会を中心とした午後の部に分かれ、午前の部においては、5つのグローバルCOE拠点の教育・研究内容を各拠点リーダーが紹介した他、本学公認の技術系学生サークル“Meister”の堀江啓(東工大 情報工学科4年)氏の特別講演が行われました。各拠点に分かれて行われる午後の部において、SIMOTは、先進的起業家をお招きしての「10代起業家が仕掛ける常識への挑戦 - 君たちに伝えたいこと - 」と題した催しをとり行いました。



## ■ イベント報告 ■

### シンポジウム「企業と博士」 (2007年7月19日 東工大デジタル多目的ホール)

SIMOT センター中核組織のひとつである東工大大学院イノベーションマネジメント研究科の主催により、「企業と博士」をテーマとするシンポジウムが開催されました。

本シンポジウムの目的は、「企業が博士に期待することは何か?」「大学が博士を企業に送り出す上で行うべきことは?」などの疑問や、「博士」に関する問題点について議論し、解決の糸口を見出すことでした。当日は、まずお二人の企業経営者と西村本学監事によるご講演があり、その後、博士問題で著名なジャーナリストと三木本学副学長が加わってのパネルディスカッションが行われました(パネリストは全て博士)。大学関係者、企業人の他、博士課程在学学生、博士号取得を考えている学生・社会人等の多数の参加の中、博士を輩出する大学とそれを受け入れる企業の、それぞれの忌憚らない意見がぶつかり合い、会場の博士課程在学学生に向けてパネリストから熱いエールが送られるなど、有意義な議論が展開しました。



### 第5回 Inter-COE シンポジウム (一面からの続き)

Inter-COE の主な目的として、高校生などを対象とした、東工大最先端の研究拠点の紹介および世間での認知度の向上が挙げられます。SIMOT では以上に加え、世界最先端の教育・研究拠点としての教育活動の構図の明確化を目的とした、次世代リーダーへの啓蒙・啓発、その効果の検証、教育・研究機構の内容告知のインパクトトレース調査を、今次 Inter-COE の機会に実施しました。

以上の目的に照らし、某出版社とのタイアップにより SIMOT および経営工学・イノベーションマネジメント研究科の紹介を事前に実施し、今次 Inter-COE 見学会における啓蒙・啓発の一助とするとともに、そのインパクトを実験的にトレースいたしました。

見学会においては、まず、昨年度 Inter-COE のインパクト調査を目的に、昨年度参加者で東工大入学を果たした学部生3名に来ていただき「東工大入学に与えた SIMOT 活動のインパクト調査」を実施。さらに下記2名の10代起業家をお招きしての「10代起業家が仕掛ける常識への挑戦 - 君たちに伝えたいこと - 」と題した催しを取り行いました。



昨年度参加東工大学部生による SIMOT イベントのインパクト紹介

- ・家本賢太郎氏 (株)クララオンライン 代表取締役社長 ・藤田志穂氏 シホ有限会社 G-Revo 代表取締役社長



講演に先立ち、経営工学・技術経営・SIMOT の説明がなされた後、おふたりの10代起業経験を中心としたご講演、さらには、SIMOT 活動の啓発の一環としてビジネスゲームが行われました。

参加者に、自身が考える「21世紀のキーワード」およびそこから考えうるビジネスを挙げてもらうことで、問題発見・解決のサイクルを体験してもらう当ゲームにおいては、21世紀のキーワードとして斬新な着想がいくつも提示されました [例] つながり、子供、常識の創造、水 etc...



どの参加者のアイデアも、創意に満ちたものであり、今回の Inter-COE に朝からご参加くださった、中原恒雄 SIMOT リサーチセンター評価委員長も高く評価されました。



## 研究・技術計画学会 国際問題分科会 7月例会 - 私の米国トーク番組体験記 (7月30日 東工大 百年記念館)



今次例会では、元 JETRO ニューヨーク 事務局長、日本商品清算機構専務取締役 野口宣也氏に、「私の米国トーク番組体験記 - インスティテューショナル技術経営学への示唆」とのテーマで講演していただきました。

1991年から96年までの5年間のアメリカ駐在時にご経験されたJETROでの貿易関係の協議および米国トーク番組への出演経験を元に貴重な体験談を披露していただきました。

野口氏が活躍された1990年初は、日本のバブル景気が終焉し、日米の経済摩擦が新たな局面を迎えた時期であり、実際の自動車貿易摩擦等を経られた野口氏の日米双方の文化に精通された慧眼は、インスティテューションに視点をすえたSIMOT的思考を大いに刺激するものであり、また、聴衆の興味を喚起しました。



## コラム

### 戦略的提携における組織設計:SIMOTによる新たな視座

SIMOT ポスドク  
Yuosre Badir



今日のネットワーク社会においては、企業組織や開発プロジェクトの内容が複雑化し、それらの組織をマネージすることは極めて難しく、中でも、パートナー企業間のコミュニケーションとコーディネーションが、非常に厄介な問題となっている。

組織設計の文脈においては、コンティンジェンシー理論が、異なる組織設計を説明するものとされてきた。当理論によれば、組織設計が違って来る要因は、組織の規模、歴史の長さ、技術や開発活動の性格、複雑性や不確実性の度合いなどである。これら全ては、内部要因（内部環境）として分類できる。

しかし、規模や歴史の長さなどが同様であっても、企業の組織設計や戦略的アライアンスの態様は国によって様々である。では、なぜ類似の内部環境がある場合においても、相違が出てくるのだろうか。また内部環境に加え、組織設計に影響を与える他の要因はあるのだろうか。

SIMOT の概念は、これらの問いに対する解を提供している。SIMOT では、動的な相互作用として、イノベーションとインスティテューション（国家戦略・社会経済システム、企業組織と文化、歴史的俯瞰の3次元で定義されている）の間にある相互作用、インスティテューションの3つの次元間の相互作用のふたつを考える。例えば、一国の歴史的背景は、確実にその文化（ビジネス風土や社会文化）に影響を与えており、その結果として国のビジネス風土と社会文化は企業の組織構造や文化に影響する。



SIMOT は、類似の内部環境にあっても、国が異なれば、組織設計も異なるものになり得ることに新たな概念をもって説明を加えている。国家のインスティテューションと組織設計間の共進化ダイナミズムの概念は、コンティンジェンシー理論との間隙を埋め、当理論を補完するものである。

現在、私はSIMOTのポスドクとして、戦略的アライアンスのメンバー企業がどのように組織化され、パートナー企

業間のコミュニケーションやコーディネーションをどう支えているか、また異なる組織設計が新製品開発の成否にどう影響するか、という研究に従事しており、8月にはフィラデルフィアで行われた経営アカデミー2007年次大会にて研究報告を行った。

今後は、日本、スイス、米国などの異なる国々における戦略的アライアンスを研究し、その類似性や異質性を抽出し、内部環境は似ているが、その存立する国（インスティテューション）が異なる企業を比較することで、国のインスティテューションが、戦略的なアライアンス組織設計とその成否にどのような役割を演じているかを確認したいと考えている。



経営アカデミー2007





## SIMOT とは・・・

SIMOT とは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復し、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。“サイモット”と呼称しています。

## ■ 最近の動き ■

### ● 海外出張

- 渡辺 8月26日～31日 マレーシア ランカウイ (アジア生産性機構「イノベーションと競争力に関する国際専門家会合」出席)
- 9月7日～15日 ウィーン (国際応用システム分析研究所(IIASA)「ハイブリッド技術経営」国際ワークショップ主催)
- 9月26日～28日 北京 (日中韓工学アカデミー国際シンポジウム発表・定期協議出席)
- 9月28日～29日 大連 (大連理工大学大学・大連市科学技術局との共同研究打ち合わせ)
- 飯島 9月12日～16日 ベトナム (研究交流、意見交換)
- 矢島 9月12日～16日 ベトナム (研究交流、意見交換)
- 妹尾 9月12日～16日 ベトナム (研究交流、意見交換)
- 伊藤 9月21日～30日 ポルトガル・デンマーク (現地研究員と共同研究)

## ■ イベント予定 ■

### 研究・技術計画学会 国際問題分科会 9月例会

- 日時 9月20日(木) 18:00～20:00
- 場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室
- テーマ 「イランと日本のナショナル・システム・オブ・イノベーション：類似性と異質性 - インスティテューショナル技術経営学への示唆」
- 講師 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 ナルゲス ハギー氏

### 平成19年度前期 SIMOT RA・若手研究者 研究報告会

- 日時 9月25日(火) 13:00～17:30
- 場所 東京工業大学 西9号館3階 311号室

### ● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム  
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51  
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
西9号館 208B号室  
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250  
Email: [yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp](mailto:yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp)  
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>  
編集者: 菊池 隆